

小林 澄子さん  
(上延生)

### 居心地のよいところ

「教室は間違ふところ」という作者不詳の詩がありました。お互いの人格を認め合いながら切磋琢磨し、共に成長する居心地のよい教室がいいね。という内容で、そんなところを目指していたものでした。

時を経て、地域の皆様にお世話になることになってみると、そんな所が、身近にもあったのです。

正義の味方、真理を求める人、個性豊かな人たち、ユーモアいっぱいの素敵な方々、そして、失敗を責めないゆったりとした優しい環境。

行事等では、それぞれの持ち味を生かしながら、楽しい輪が広がります。

このような居心地のよいところに、何げなく加えていただくことができることに感謝しています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木 俊喜さん  
(上稲毛田)

### 農業職から潤う芳賀町

地元芳賀町に戻り、農業職に就き4年目を迎えました。以前は都内で飲食業をしていましたが、より食の安全性・見える化を具体的に展開するべく、自然豊かな芳賀町に戻り農業を行っています。

戻って芳賀町の変化に驚かされました。LRTの導入、団地の拡大、道路の建設など、少子高齢化の未来を見据えた動き。ですが、農業からみればいろいろな事業を行っている中、次世代農家への期待が高まっていますが、その動きは制限傾向にあり、若手お年寄り関係なく芳賀町産の青果などのアピール、マッチング、フォローの強化に期待してしまいます。芳賀をブランド化、県外・海外へのアプローチを展開し、経済の安定、農業の偉大さを踏まえ次世代農家の確保、増加へ取り組むことができれば、人口が増え町が潤う一つの手段になるのではないのでしょうか。

関口めぐみさん  
(東水沼)

### 子供たちを守るガードレール増設について

和泉ニュータウンの小学生約25名が利用するスクールバスのバス停は、早朝通勤ラッシュで交通量の多い県道下高根沢氷室線沿いの下り坂にあります。冬には路面凍結等で、児童の列に車が突っ込んでくるのでは…と日々、交代で立哨する保護者も気をつけておりました。またテレビなどで流される悲惨なニュースを目にするたびに、子供たちの身を守るためにまず何ができると地元の議員さんに相談したところ、子供たちの安全第一とご尽力頂き長年要望してきた念願のガードレールが増設されました。まずは安全に登下校でき安心して住める町、そして子供たちが成長し勉強等で芳賀町を離れても、またこの町に戻ってきたい…と思う町になることが私たち親の願いです。子供たちは私たちの命も同然、そして芳賀町にとってもかけがえのない宝です。みんな、みーんな元気にすくすく大きくなーれ！（^^）！と願いを込めて…。